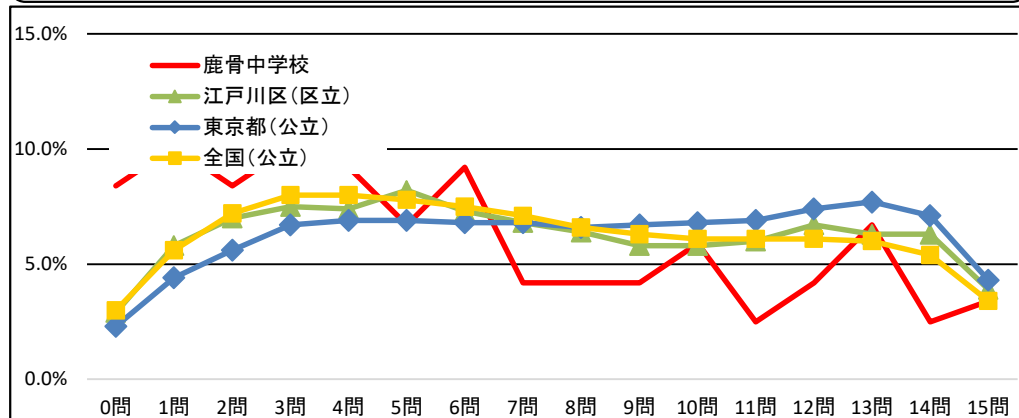


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】江戸川区立鹿骨中学校

正 答 数 分 布

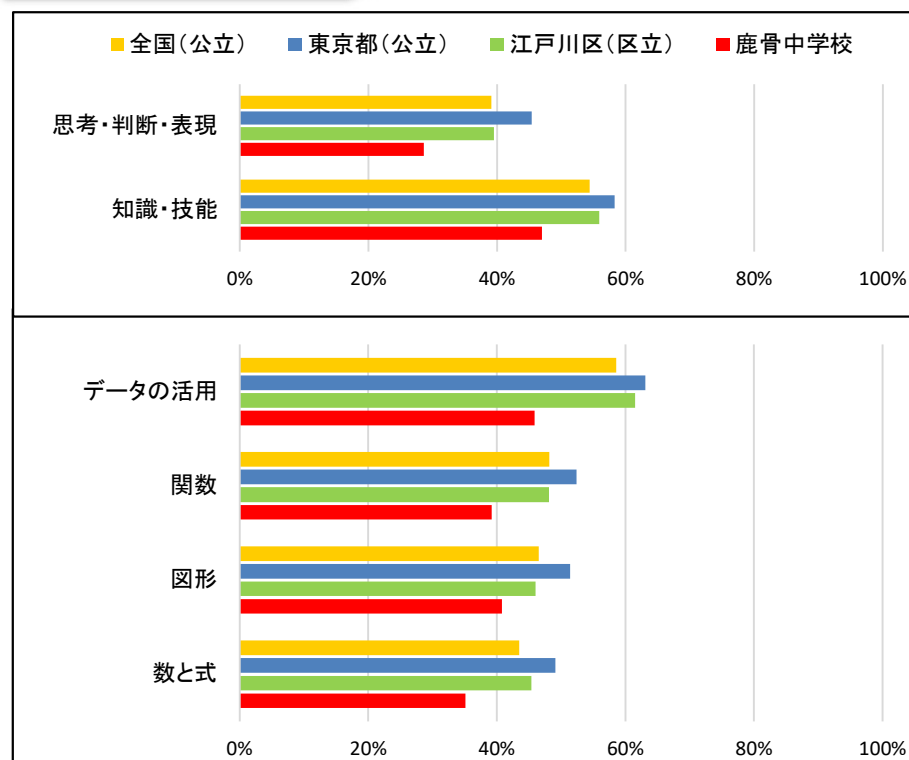
平均正答数
鹿骨中学校：5.9問
東京都(公立)：8問
江戸川区(区立)：7.4問
全国(公立)：7.2問



【平均正答率の差】

鹿骨中学校	40%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-13.0

「領域別」の結果

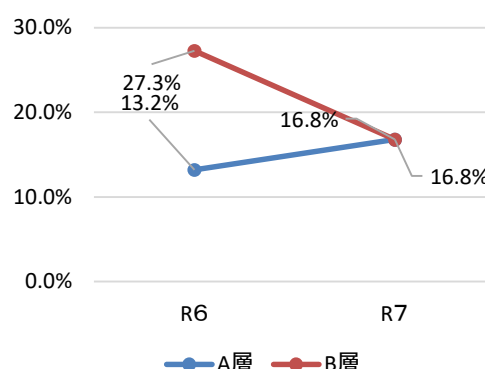


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

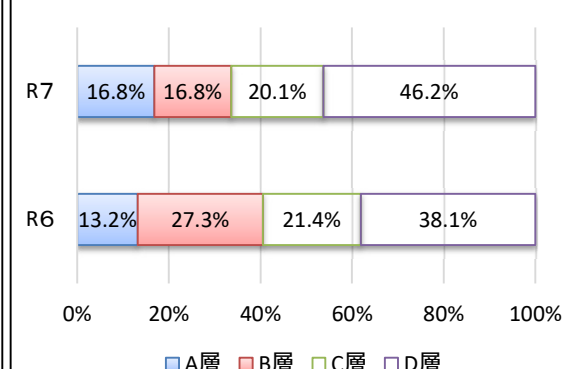
数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12～15問	B層 8～11問	C層 4～7問	D層 0～3問
鹿骨中学校	16.8%	16.8%	20.1%	46.2%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

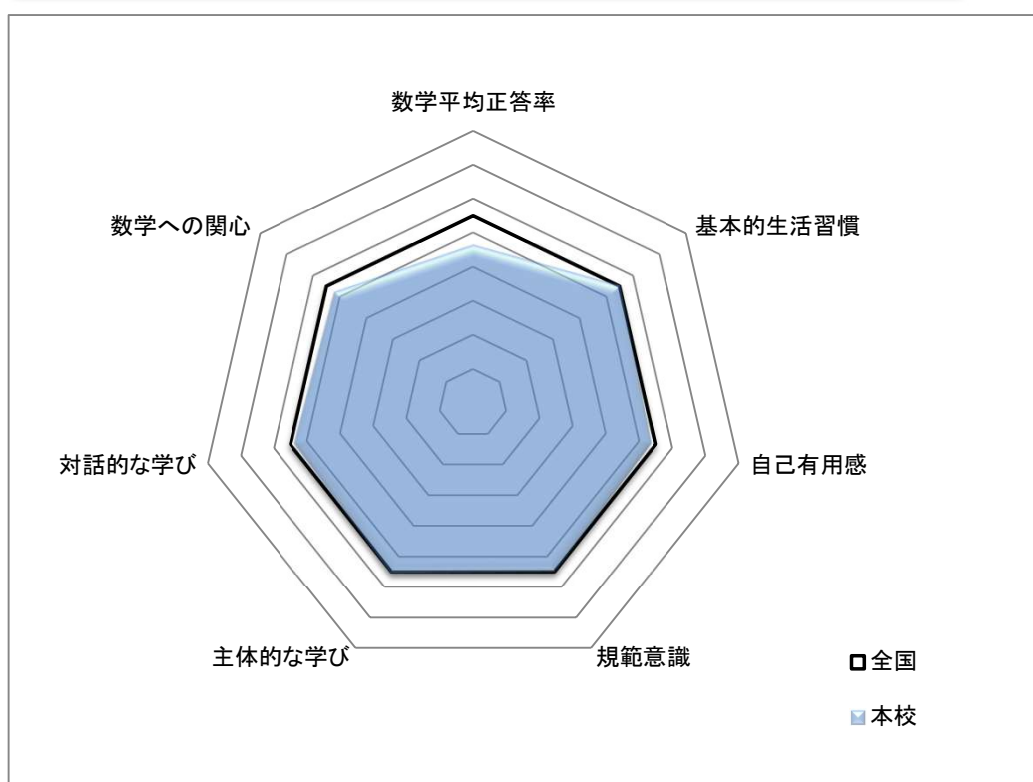
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

数学の平均正答率・数学への関心が全国平均を下回っている。それ以外の基本的学習習慣・自己有用感・規範意識・主体的な学び・対話的な学びの項目において、全国平均とほぼ同じである。

《家庭・地域への働きかけ》

授業の振り返りを徹底して学力の定着を図りたいと考えております。家庭学習での振り返り等の定着を図ることにご協力ください。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

A層が16.8%、B層が16.8%となっている。本校はD層の割合が46.2%となっているため、基礎基本の定着を重点的に行っている状況である。知識・技能では-7.4%、思考・判断・表現では-10.5%と全国平均を大きく下回っている。特に思考・判断・表現において下回りが大きい。基本的な知識・技能の定着をまず行う必要がある。領域別には、全国平均に対して数と式が-8.4%、図形が-5.7%、関数が-9.0%、データの活用が-12.7%と大きく下回っている。基本の数と式の定着から進めていく必要がある。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

校内研修・授業観察・区中研の研修などを通じて、基本の定着についての指導法を身に付けていく。対話的な学習活動を重視し、生徒が主体的に取り組む授業の充実を図る。生徒が「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何を学んだのか」をわかる授業を行う。

・基礎学力の保障

授業内において、復習を行いながら時間を掛けて丁寧に説明を行っている。習熟度別指導においても、基礎クラスを少人数で編成し、個別の対応を進めやすくなるよう工夫している。上級学年の学習時には同領域における過去の学習内容との関連に触れ、復習する。

・学習習慣の確立

宿題を毎回の授業で出すなど、家庭学習の習慣を身に付ける取り組みを続けていく。授業内容の振り返りも家庭で行うよう積極的に働きかける。

・AB層の育成

習熟度別指導を活用して、基本を理解できた生徒への演習を充実してAB層の割合を増やしていく。根拠を示しながら言葉や文章で数学的に説明する場面を多く設定する。文章題や関数の問題に多く触れさせ、苦手意識を解消する。また、学習した内容を自分の言葉で表現する機会をつくり、思考力を高める指導を行う。